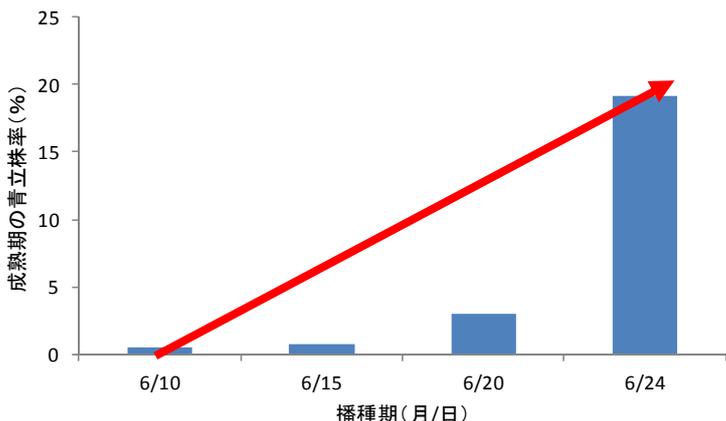


## 大豆「シュウリュウ」の青立ち発生を抑制するための播種期・栽植密度

### 【1 成果概要】

(1) 「シュウリュウ」の青立ち\*発生を抑制するため、6月20日以降の播種は避けましょう。

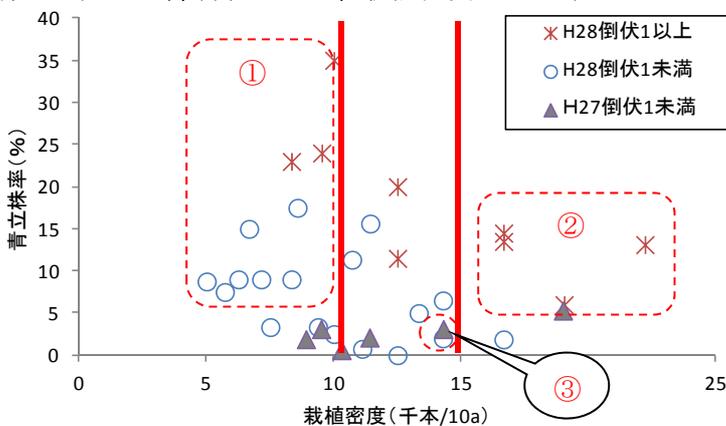


播種期が6月20日以降の播種では、成熟期の青立株率が高まります。

\*青立ちとは成熟期に達しても、落葉が遅れ、茎に青みが残る状態のことを言います。青立ちした株をコンバインで刈取ると、大豆に汁がついて汚れてしまいます。

播種期と成熟期の青立株率の関係 (H28)

(2) 青立ち発生を抑制するため、栽植密度は1万本~1万5千本/10aを確保しましょう。



①疎植にすると、青立株率が増加します。  
 ②密植にすると、倒伏等により青立株率が増加します。  
 ③条間70cm×株間20cm×2本立(1万4千本/10a)では青立ちや倒伏がなく多収でした(H27,28)。

栽植密度と青立株率の関係 (H27,28)

### 【2 期待される効果】

「シュウリュウ」の安定生産供給が図られます。

### 【3 留意事項】

この内容は、播種時期、倒伏、栽植密度について検討したものです。これら以外の青立ちの要因については、更に検討が必要です。

### 【4 適応地帯】

「シュウリュウ」の栽培地帯